

「議会報告会」意見交換会テーマ 正副委員長案（7/11確認済）

1. テーマ案

“市民が誇りをもてる「環境モデル都市」「環境文化都市」の実現に向けて”

サブテーマ ～まずは、身近な環境問題について考えてみましょう～

2. 基本的考え方

- ① 現状において各自治体の総ての政策施策は、「人口減少」をいかに食い止めるか、という問題に収斂していて、飯田市においても「いいだ未来デザイン2028」は、12の基本目標が総て、直接間接的に「人口減少対策」に結びついている。
- ② 「人口減少対策」の柱は、「移住定住促進」と「交流人口の増加」であり、「移住定住促進」には、働く場所の確保(産業振興)を前提に、幾つかの分野における自治体のもつ強みを磨き上げ、特化させ、それをブランドとして発信していく必要がある。同時に住民がそのブランドを十分認識し誇りとしなければならず、シビックプライドの醸成は必須の課題である。
- ③ これまでの取組状況と、リニア・三遠南信道開通を見据えた時、飯田市が特化する分野の候補としては、例えば総務委員会の所管では【環境】【防災】、社会文教委員会では【子育て】【健康】、産業建設委員会では【産業振興】【観光】などが挙げられるのではないか。
- ④ こう考えると、議会としても「人口減少対策」に重きを置き、各常任委員会がこれらの特化すべき分野と、シビックプライドの醸成を意識した調査研究を行って行政をチェックし政策提言に結びつけることが求められているのではないか。(各委員会の判断は、当然尊重されるべきだが)

3. 総務委員会の研究テーマの方向性

上記の考え方からして、総務委員会所管の分野において、飯田市の強みであって「移住定住促進」に寄与するものとしては、他に先駆けて取り組んで「環境モデル都市」の指定を受け、「環境文化都市宣言」を出していることから、【環境】はその候補になり得るものとする。

「環境モデル都市」については、全国で23の自治体のみが選ばれていて、県内でも唯一の指定を受けている飯田市は、それを十分に誇れるにも関わらず、このことをどれだけ市民が知っているのか、また、「環境文化都市宣言」にあった施策展開がなされているのかは見えていない。

これらを考えた時、折角の「環境モデル都市」「環境文化都市宣言」を生かし、その姿を明確にしてその実現に向けた政策提言を行うと共に、飯田市の環境への取組に対し、市民が誇り(シビックプライド)を持てるようにしていく道を、当委員会の研究テーマの一つとして取り上げたいと思う。

これを前提として、今回の議会報告会における意見交換会のテーマとしては、「環境モデル都市」「環境文化都市」を真正面から取り上げても、参加者は意見が出しにくく、肝心の参加者が減ってしまうのでは、という危惧があるため、サブテーマを設定し、日頃市民の皆様が感じている環境問題を拾い出すことに重点を置いて意見交換を行い、その上で、委員会として市民が誇りの持てる「環境モデル都市」「環境文化都市」の構築に向けた調査研究が出来れば、と考えます。

4. 委員の皆様からのご提案

7月5日(金)の提出期限までに、委員の皆様から次のテーマをご提案頂きました。

- ・「移住・定住をどう進めるか」
- ・「地域コミュニティを進めるには」
- ・「若者をつながる地域づくりとは」

いずれも、重要なテーマですので、これらも含めてご検討願いたいと思います。